

【計画策定の背景と目的】

- ◆ 本市においては、国のインフラ長寿命化基本計画に基づく取組みを踏まえ、彦根市公共施設等総合管理計画（平成29年3月）（以下、「総合管理計画」という。）に基づき、限られた財源の中で、施設を安全・安心に利用できるよう、また、適正な規模や配置等により、市民サービスの維持・向上が図れるよう取組みを進めているところです。
- ◆ 彦根城博物館施設適正管理計画（以下、「本計画」という。）は、前述の総合管理計画に基づき、彦根城博物館を対象として、現地調査等を踏まえて現状の評価を行い、ライフサイクルコスト、保全優先度等を勘案しつつ、今後の維持保全の方向性を検討し、部位別の優先順位を考え、整備内容、時期、費用等の具体的な計画を策定することを目的とします。

【計画の期間】

2020（令和2）年度～2029（令和11）年度の10年間

■施設の概要

項目	概要															
建物概要	位置：彦根市金亀町1番1号															
	昭和62年2月11日 開館 文化財保護法第53条に規定のある公開承認施設 敷地面積 16,827.18㎡ 延床面積 4,863.30㎡ <建物の内訳> <table border="1"> <tr> <td>①本棟</td> <td>鉄筋コンクリート造平屋建</td> <td>一部2階</td> <td>4,015.75㎡</td> </tr> <tr> <td>②木造棟</td> <td>木造平屋建</td> <td>一部2階</td> <td>693.44㎡</td> </tr> <tr> <td>③能舞台</td> <td>木造平屋建</td> <td></td> <td>154.11㎡</td> </tr> <tr> <td>④その他</td> <td>庭園</td> <td></td> <td>2,590.00㎡</td> </tr> </table>	①本棟	鉄筋コンクリート造平屋建	一部2階	4,015.75㎡	②木造棟	木造平屋建	一部2階	693.44㎡	③能舞台	木造平屋建		154.11㎡	④その他	庭園	
①本棟	鉄筋コンクリート造平屋建	一部2階	4,015.75㎡													
②木造棟	木造平屋建	一部2階	693.44㎡													
③能舞台	木造平屋建		154.11㎡													
④その他	庭園		2,590.00㎡													
事業概要	展示	①“ほんもの”との出会い ②テーマ展・特別公開 ③企画展 ④特別展														
	収集・保管	彦根にゆかりの資料の収集を図るため、資料の購入・受贈・受託を実施														
	調査・研究	井伊家伝来資料を中心とする博物館資料の調査を進める。 大名道具を中心とした美術工芸品、旧藩士家・彦根藩関係文書の調査を行い、各分野の研究を進める。 他														
	普及	①講演会 ②ギャラリートーク ③博物館講座 ④博物館教室 ⑤彦根城博物館だより ⑥博物館学芸員実習 ⑦展示内容の受け入れ・講師派遣など ⑧問い合わせ等の対応 ⑨彦根城博物館ホームページ														
	市民との協働	①彦根城博物館友の会による展示解説ボランティアガイドの実施 ②博物館支援スタッフにより以下の取組みを実施 ・彦根城能・狂言運営事業 ・教育普及事業 ・古文書解読ボランティア														
	催物	博物館の能舞台を活用して、伝統芸能である能・狂言を開催することを通じて博物館への認知度を高め、市民が伝統芸能に触れる機会を醸成する。 能：年1回（9月） 狂言：年2回（6月、11月）														
	刊行物	特別展図録、企画展図録、研究紀要、小学生向けガイドブック														
	薄茶席・売店運営事業	来館者へのサービス提供の一つとして薄茶席と売店（ミュージアムショップによる普及物品販売）を当館直営で運営実施														

施設写真



●本棟



●能舞台



●木造棟

■現状のまとめ

	本館：RC造	木造復元棟	能舞台	その他敷地全体・庭園
利用者の状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度の約17万人をピークに減少、平成27年以降増加傾向に転じるも平成30年度の観覧者数は約12.5万人の状況。 講堂の利用状況（利用件数、利用者数）は、142件/年、2,985人（平成30年度実績） 	<ul style="list-style-type: none"> 木造復元棟の利用状況（利用件数、利用者数）は、8件/年、344人（平成30年度実績） 	<ul style="list-style-type: none"> 能舞台の利用状況（利用件数、利用者数）は、30件/年、1,981人（平成30年度実績） 	<ul style="list-style-type: none"> —
観覧者意向 ※アンケート結果による (回答率 約1%)	<ul style="list-style-type: none"> 回答者の居住地は、毎年県外からが約50%以上を超えている。市内からは毎年10%未満である。 施設へのアクセス手段については例年、自家用車が最も多く5割を超えている。一方、自家用車の利用割合は減少傾向、電車利用が増加傾向にある。 来館者の興味のある分野については、「甲冑・刀剣」への興味が高く、次いで「庭園」、「木造棟」の順で平成26年度以降、同様の傾向である。 満足度については、平成26年度以降は「とても満足」及び「まあ満足」を含む「満足」が80%以上。 歳出に関しては、維持管理費が約1億円～1.2億円、事業運営費が約4,900万円～7,400万円で推移。歳出全体では約2.5億円前後で推移。 歳入に関しては、使用料及び手数料、諸収入が主なもので、約8,500万円～1億円程度で推移。 			
コストの状況	<ul style="list-style-type: none"> 施設の運営に当たっては、市による直営で実施。 			
劣化状況（平成28年度）	<ul style="list-style-type: none"> A敷地地盤：木造塀の腐食がみられ、塀の全面改修が必要。発電機の劣化がみられるため長期的には更新が必要。 B外壁：白蟻痕、クラック・剥離欠損多数みられ、外壁の全面改修が必要。 C屋上屋根：排水におけるオーバーフローあり：要経過観察 D建物内部：パーティションの設定による防災設備の適切な設置が必要。雨漏り痕あり。 E避難施設等：排煙設備・非常用照明装置の更新 			
近年の改修工事	<ul style="list-style-type: none"> 近年の改修工事は、展示室5・6照明設備改修委託業務（平成29年度）、講堂電灯設備ほか改修工事（平成28年度）、展示室1展示ケース電灯設備改修工事（平成28年度）、空調設備改修工事（平成26.27年度）、屋根ほか改修各種工事（平成26.27年度）、木造棟畳表替修繕（平成26年度）、館内トイレ洋式化（平成26年度）、展示ケースクロス張替え（平成26年度） 			
蟻害・腐朽調査 (平成30年度)	<ul style="list-style-type: none"> — 	<ul style="list-style-type: none"> 全般的に良好な状態であるが一部被害の大きい箇所あり。御座之間棟：建物北西側、トイレ周辺部が顕著。能舞台：能舞台、橋掛、控室の被害が顕著。 	<ul style="list-style-type: none"> 外構部（瓦塀）：全体的に腐食を伴う被害が大きい。予め薬剤処理をした部材による交換が適切。 	
劣化調査（平成30年度）	<ul style="list-style-type: none"> — 	<ul style="list-style-type: none"> 外部では、軒樋の歪み等全面的改修が必要、土台など木部の腐朽及び壁面漆喰の浮き・亀裂あり。 内部では、柱・木部周りのチリ切れが顕著(チリ切れ：柱、壁の取り合い部分のすきま)。 		
不陸調査（平成30年度）	<ul style="list-style-type: none"> 建物の高低差はRC造建物では0～280mm、木造建物では0～200mm。RC造建物では軟弱地盤箇所と思われる部分においての不陸が顕著。 計測値から木造部分はRC造建物の沈下に引っ張られていると考えられるが、RC造建物より重量が軽量のため比較的数値が小さい。 		<ul style="list-style-type: none"> — 	
柱傾斜調査（平成30年度）	<ul style="list-style-type: none"> — 	<ul style="list-style-type: none"> 柱の傾斜における数値は、1/1000mmの計測値である。調査の結果から、各柱における傾斜は見られるものの数値は小さく、10mmを超える箇所はほとんど見られない。 不陸調査の結果を考慮すると、柱に生じている傾斜は、下部構造の基礎耐圧盤の沈下により生じたと考えられる。 		<ul style="list-style-type: none"> —
問題点・課題	<ul style="list-style-type: none"> ■建築物 <ul style="list-style-type: none"> 外壁全体の漆喰の早期補修 施設全体の不陸への対応 ■設備等 <ul style="list-style-type: none"> 玄関：入り口から受付までのアプローチが長く、アクセス改善が必要 収蔵庫：扉の開閉に不具合有、玄関の吊式自動ドアの下部が地面に接触、必要な収蔵スペースが不足（令和元年7月時点で約154%の収納率） 施設内シャッターのうち、相当な重量のある脇見所スライディングウォールについて安全面が懸念 <ul style="list-style-type: none"> ⇒施設内シャッターの重点的な点検、脇見所スライディングウォールの利用停止及び強化ガラスへの変更、能舞台利用時に窓ガラスを開閉するため外気流入に伴う収蔵品への影響への対策 展示ケース・ガラス：接続部分等の劣化や歪み等が散見 <ul style="list-style-type: none"> ⇒接続部における重点的な点検の実施、必要に応じた安全対策の実施 トイレ：利用者数が多い時期における消臭機能の向上、バリアフリーへの対応が不十分 <ul style="list-style-type: none"> ⇒設備の機能向上 天井裏設備における適切な時期の搬出 <ul style="list-style-type: none"> ⇒館内リニューアル等とあわせた大規模改修の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ■建築物 <ul style="list-style-type: none"> 外壁全体の早期補修により漆喰の劣化の進行の抑止が必要 <ul style="list-style-type: none"> ⇒歴史的な建築物が集積するエリアの施設として景観上にも配慮した維持・保全の取組みへの対応 雪溜りによる湿気対策 <ul style="list-style-type: none"> ⇒排水溝の健全化、強制換気設備の設置により、劣化の進行を抑止し、長期的な維持保全への対応 蟻害被害への全面的な薬剤処理が望ましいが、被害箇所を中心としたエリアの優先的な対策が必要 <ul style="list-style-type: none"> ⇒今後は、1～2年ごとの定期的な蟻害・腐朽被害の調査診断の継続が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■建築物 <ul style="list-style-type: none"> 能舞台では全面的な薬剤処理が望ましいが、被害箇所を中心としたエリアの優先的な対策が必要 <ul style="list-style-type: none"> ⇒今後は、1～2年ごとの定期的な蟻害・腐朽被害の調査診断の継続が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ■外構 <ul style="list-style-type: none"> 瓦塀の一体的な早期修繕 かぶき門の横の木塀に傾斜がみられるとの指摘があり緊急補修対応中。 ■遺構 <ul style="list-style-type: none"> しだれ桜は植え替えしても枯れてしまうが遺構のため木々の植え替えが困難 ■管理・運営 <ul style="list-style-type: none"> 蟻害調査の定期的な点検の位置づけ

彦根城博物館の今後の方針

課題のまとめ

課題1 安心・安全の確保

課題2 事後保全から予防保全への転換

課題3 博物館機能の充実【社会教育施設】

課題4 施設の有効活用

課題5 効率的・効果的な管理運営方法の選択

維持管理に向けた方針

方針1 施設の安全性を重視した予防保全による適正な維持管理

方針2 長寿命化の推進

方針3 博物館機能の充実

方針4 利用者本位で満足度の高いサービス提供の推進

方針5 彦根の歴史・文化の積極的な発信

施設の保全計画

使用目標年数の考え方

彦根城博物館は、鉄筋コンクリート造及び木造から構成されており、構造種別ごとに使用目標年数を設定する必要があります。

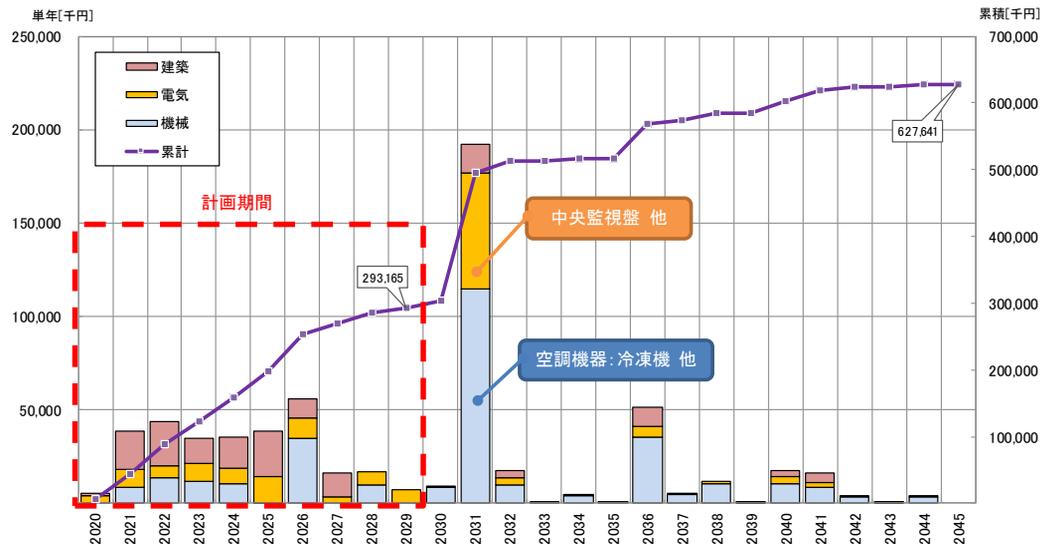
日本建築学会編集「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」による考え方と同様の取扱いとし、RC造の使用目標年数は、標準供用級の65年に設定します。

なお、木造復元棟については文化財価値の高い施設であるため、上記の考え方に基づき設定すべき対象施設からは除外して取り扱うものとします。今後は、RC造の使用目標年数後の取り扱い方針を検討する時期にあわせて対応方法を検討していきます。

長期保全計画

使用目標年数の期間において、建物や設備を適正に維持管理していくため、建築（屋根、外壁等）、電気設備、機械設備の部位ごとの修繕・更新等の周期に応じた対策を計画的に行います。

長期的に見込まれる保全コストのうち、金額の大きなものとしては、2031年に空調設備（空気熱源ヒートポンプユニット）の更新のほか、中央監視盤の更新が見込まれています。



計画の更新

施設の現状分析における課題のうち、新たな収蔵庫の整備、リニューアル改修、防災設備等の整備・改修、空調設備の更新、大型設備・建具等の整備・更新、給排水設備の整備・更新、不陸対策などの実施については、文化財保護などの観点から実施が困難なこと、屋根・壁・天井・床などの大規模改修が必要またはその時期と合わせないと施工できないこと、不陸の影響による不具合と考えられ沈下の進行状況を把握する必要がある等の理由により本計画に反映できておらず、大きな課題として残されています。

これらの整備・改修等については、今後、具体化に向けた検証を進めたうえで、適切な時期に本計画の更新を検討するものとします。

計画の継続的運用方針等

1. 情報基盤の整備と活用

2. 推進体制等の整備

3. 財源の確保

4. フォローアップ